

軽さは感度、全機種アンダー100g リーディングLG

4月発売予定

●ゲームロッドの最先端を行く「リーディング」がフルモデルチェンジして「リーディングLG」として登場する。新製品の第一の特長は新バランス理論ESSの搭載だ。しなやかさと操作性という相反するベクトルを高次元で融合させることで、軽快な操作性、ファイト時のパワー、高感度を実現した。調子ごとに異なる穂先（チューブラー、メガトップ、メタルトップ）、軽量ゼロシートキャビティトリガー、穂先部AGSガイド、X4.5などのダイワテクノロジーの搭載がすべての部分に作用した結果といえる。高槻慧さんを始めとしたテスター陣が「まったく違う竿になっている」と驚くほどの完成度となっている。

▶右から64にはチューブラー、73にはメガトップとメタルトップ、82にはメタルトップと調子ごとに最適な穂先を選択
▼小型両軸、小型電動リールに相性のよい軽量高感度のゼロシートキャビティトリガー



アイテム	全長 (m)	継数 (本)	仕舞 (cm)	自重 (g)	先径/元径 (mm)	オモリ 負荷(号)	適合ハリス (号)	カーボン 有率(%)	メーカー希望 本体価格(円)
64 M-195	1.95	2	124	85	1.3/9.7	20~60	~6	74	40,500
64 MH-195	1.95	2	124	87	1.3/9.7	30~80	~8	80	41,000
73 M-190	1.90	2	119	82	0.8/9.7	15~60	~6	77	41,000
73 MH-170	1.70	2	111	81	0.8/9.7	20~80	~8	77	40,500
73 MH-190	1.90	2	119	85	0.8/9.7	20~80	~8	85	41,500
73 H-190	1.90	2	119	91	0.9/9.7	30~100	~10	87	42,000
73 HH-190	1.90	2	119	94	1.0/9.7	40~120	~10	90	42,500
73 MH-185 MT	1.85	2	114	87	0.7/9.7	20~80	~8	76	43,000
82 M-185 MT	1.80	2	109	89	0.6/9.7	15~40	~8	73	42,500
82 MH-180 MT	1.80	2	109	90	0.6/9.7	25~60	~8	81	43,000
82 H-180 MT	1.80	2	109	94	0.6/9.7	30~80	~8	85	43,500



ライトゲーム 150L-DH

◀滑らかな巻き上げのカウンター付き小型両軸リール

シーボーグ200 JL-DH

▲タチウオにはもはや定番ともいわれる電動リールだ
▼手のひらにスポッポリ収まって片手操作も楽らく



▲テンヤは「快適タチウオテンヤSS速攻」40号を使用
▶ライトアジには新製品「快適アジビシ仕掛け」、3本バリ仕様



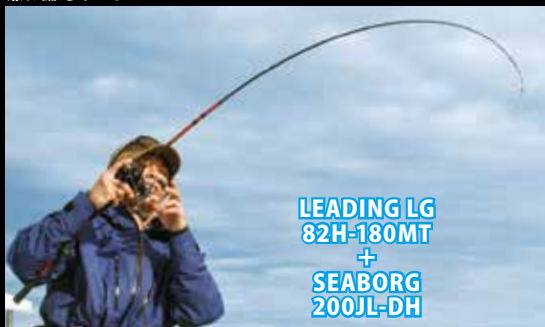
LEADING LG 64M-195 + LIGHT GAME IC 150L-DH

▲イシモチは柔軟な穂先でしなやかに食わせる



LEADING LG 73MH-190 + LIGHT GAME IC 150L-DH

▲バラシを防ぐしなやかさとコマセを振りやすい操作性を兼ね備えている



LEADING LG 82H-180MT + SEABORG 200JL-DH

▲テンヤ釣りのタチウオはリーディング82H-180MT、うまく合わせが決まった



◎ライトアジも結果を残すには竿選びが大切

さらなる進化を遂げてリーディングLG登場



LEADING LG 73MH-190 + SEABORG 200JL-DH

★テンビン釣りのタチウオではメインとなる73MH-190

高槻慧 最先端のゲームロッドで東京湾の人気魚種に挑戦

THE FRONT OF OFF SHORE FISHING vol.80

ライトゲーム最前線

at 東京湾奥金沢漁港出船

◎ダイワの2023船釣りロッド、注目の新製品として登場するのが「リーディングLG」だ。ダイワのリーディングといえば、ゲームロッドのパイオニア、常にこの分野の最先端をいく竿である。今回は高槻慧さんがこの竿を持参して、東京湾の人気3魚種を釣りまくった模様をお届けする。



▶イシモチはしなやかに食わせてバラシを防ぐ

▲テンヤタチウオにも対応できる汎用性の高さが魅力



◎全11アイテムあるうちの3アイテムを持参

これですとばかり、次はメタルトップ搭載の82H-180MTに替え、高槻さんの十八番、テンヤ釣りにチャレンジである。お家芸のノンストップパイプレーション釣法を駆使。この日はどちらかといえば食い渋り、テンビン釣り優勢というなか、ほとんどグインと竿を曲げ同級を釣り上げる。「感度と操作性をより実感できるのがテンヤ釣りですね」と言いながら、数本を追釣した13時に納得の沖揚がりとなった。

感じることができるのがアジなんです。同じく64Mからのスタート、40号ピンを使い投入開始。ビシ着底後、得意の「ライン引き釣法」で小刻みにコマセを振り、タナでステイ。「操作性が抜群によくありません。シャクつたあとの振り抜け感がいいんです」と言いながら1尾目を釣った後、73MHにチェンジ。「これを使うともっとよく分かります。しなやかさと操作性のバランスが両立した調子に仕上がっています」

「食い込みを促すしなやかさと操作性を上げる調子はこれまで相反するものだったが、新バランス理論ESSの採用により、絶妙なバランスを実現したというのだ。加えて前モデルよりアグラムの軽量設計(73MH-190)、AGS(穂先部のみ)、ゼロシートなどの採用で、軽さは感度も実感できるという。サクッと数尾を釣って、今度は猿島沖水深65メートル前後でタチウオだ。まずはオモリ60号、73MH-190とシーボーグ200JL-DHの組み合わせでテンビン釣りからのスタートだ。指示タナの60メートルからシヤクリ上げていくと、早くもアタリをとらえて巻き上げに入る。穂先は柔軟ながら、バットパワーの強さが際立つ曲がりを見せて90センチ級の1本目を取り込んだ。

「一見して前モデルとさほど変わらないように見えますが、実際に使ってみると確実に進化がうかがえます」と高槻さん。持参したのは23タイプの新製品「リーディングLG」である。ライトゲームロッドの歴史を刻むリーディングが生まれ変わって新登場したのである。今回持参したのは64、73、82のタイプ別に全11種あるラインアップの中から、64M-195、73MH-190、82H-180MTの3本。東京湾奥金沢漁港の蒲谷丸を仕立て、イシモチ、アジ、タチウオの豪華トリプル釣りを楽しもうというのだ。

7時過ぎに出船し、まずは本牧沖水深25メートル前後でイシモチ釣り。使用するのは64M、リールはライトゲームIC150L-DH、オモリは30号である。「イシモチには食い込みのいいしなやかさが重要です。6:4調子ですけれど、操作性もいいですよ」と高槻さん。潮の動きが鈍く、初めは苦戦したが、約20分後にガタガタと竿をたたくアタリ。64Mはコマセダイの竿のように気持ちよく曲がって25センチ級の1尾目。数尾を釣ったところで、八景沖水深25メートル前後でライトアジにチェンジ。「リーディングの進化がより実